

令和8年  
2026年

4月15日  
水曜日

第11931号

# 食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日  
第三種郵便物認可

購読料（前納）  
年間 82,080円  
（税込み）  
6か月 42,120円  
（税込み）

本紙は関連企業・団体との  
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社  
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社  
〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10  
TEL03-6206-0929 FAX03-6206-0928

大阪本社  
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48  
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局  
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12  
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



▶ 豚熱に関する特定家畜伝染病防疫指針の一部変更を答申一家畜衛生部会 …… P2

▶ 売り上げ増加し利益が大幅に向上、エスフーズの26年2月期決算 …… P3

▶ エスフーズ、取締役の異動を発表 …… P3

▶ 飼料用米の平均希望数量は、主食用米の需給の影響受け大幅減—JPPA養豚農業実態調査③ …… P4~5

▶ 輸入されるポーランド産牛肉の月齢制限を撤廃、14日から適用—農水省 …… P5

▶ かみむら牧場が、サラダバー、アイスバー、ドリンクバーを税抜き500円焼き肉ランチ（2種）1129円で販売 …… P5

▶ 日本冷凍食品協会が利用状況を調査、若い世代では利用頻度が高い傾向 …… P6

▶ 春に入り米国における野生豚や捕食動物の活動が活発化（米国） …… P6~7

▶ [資料] 都道府県別と畜頭数（令和8年2月） …… P8~9

▶ [東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数] 14日 …… P10

▶ [各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場] 14日 …… P11

## 注目のヘッドライン

### 豚熱に関する特定家畜伝染病防疫指針の一部変更を答申一家畜衛生部会

農水省は14日、第79回家畜衛生部会を省内（オンライン併用）で開催した。

…詳細はP2

### 売り上げ増加し利益が大幅に向上、エスフーズの26年2月期決算

…詳細はP3

食の感動体験を創造することで  
世界中の人々と食をつなぎ続ける

# スターゼン

<https://www.starzen.co.jp/>

# エスフーズ

# S Foods

<https://www.sfoods.co.jp/>

## 豚熱に関する特定家畜伝染病防疫指針の一部変更を答申一家畜衛生部会

農水省は14日、第79回家畜衛生部会を省内(オンライン併用)で開催し、豚熱発生時の選択的殺処分の導入などを含めた「豚熱に関する特定家畜伝染病防疫指針の一部変更」について答申した。

坂勝浩消費・安全局長は冒頭のあいさつで「今日10日には都城市において、南九州の農場で飼養されている豚では初めて、豚熱の発生が確認された。春先になると、猪の活動が活発になり、豚熱の発生が多くなるので、引き続き厳重な警戒が必要だ。一方、鳥インフルエンザについても渡り鳥が帰っていく5月までは引き続き警戒が必要であり、農水省としても水際の検疫に万全を期すとともに、各都道府県と連携を密にして発生防止に向けて全力で臨んでまいりたい」とした。

部会では、3月31日に行われた第111回牛豚疾病小委員会の審議、さらに都道府県からの意見およびパブリックコメントを踏まえ、豚熱発生時の選択的殺処分の導入を盛り込んだ、豚熱に関する特定家畜伝染病防疫指針の一部変更について審議を行った。

牛豚疾病小委においては、変更案について「豚熱の発生予防・まん延防止が確保できるものであった。了承してもよい」という審議結果となった。

また、都道府県意見およびパブリックコメントでは「個々の経営および生産活動に不要な負担を強いることがないような制度設計を」といった声や「風評などにより、と畜場への出荷や農場間の生体移動等が阻害されることがないように特に留意すること」といった意見があり、これらに対する考え方として、科学的見地からの十分な議論を重ねた上で、都道府県や関係者、さらに関連事業者らに対しても丁寧な情報共有を行うことなどが説明された。

これらの報告を受けた上で、部会では今回の変更案を承認。今回の審議結果を農水大臣に答申することを決定した。

選択的殺処分の基本的な考え方については、ワクチン接種後の発生事例の分析の結果、適切なワクチン接種により免疫を獲得した症状のない豚は感染拡大リスクにならないとの専門家の結論を得た。発生

後、殺処分などや消毒の期間を含め、おおむね3カ月間監視(移動制限+報告徴求)を行う。監視期間中も、消毒完了後、症状のない豚はと畜場出荷や肥育農場への移動が可能とする。

[殺処分の範囲]県が国と協議の上、決定する。①ワクチン接種が成立していない豚=未接種・接種後20日未満・発育不良(3回目の消毒完了後に生まれた子豚を除く)②症状が認められ、PCR陽性になった豚③その他家畜防疫員が必要と判断した豚。

また、接種が早過ぎるなど、県の指示に従わず、ワクチンが適切に接種されていない場合は、全頭殺処分対象となる。さらに感染が限局していない(農場内にウイルスが広範囲に浸潤)場合は、繁殖豚を除く全頭を殺処分対象とする。

[防疫措置]拡散状況確認検査において、全頭臨床検査を実施し、異常豚についてはPCR検査などを行う。また、殺処分は1週間以内をメドに実施し、消毒は1週間間隔で3回実施する。

[監視プログラム]移動制限と毎日の報告徴求により監視を行う(監視期間約3カ月)。消毒完了後(発生から3週間後)、症状のない豚については、と畜場への出荷、子豚の肥育農場への移動が可能になる。

最後に木下雅由審議官は「豚熱に関する特定家畜伝染病防疫指針の一部変更については、今国会に提出している家畜伝染病予防法の一部改正法案の国会における審議を踏まえ、引き続き適切に進めていきたい」と述べた上で、今回、防疫指針の主な変更点である豚熱発生時の選択的殺処分については、「実際の運用時に現場で混乱が生じないよう、さまざまなQ&Aなど、現場にしっかりと共通理解が広まるようなものも作成をしながら、都道府県や生産現場に丁寧に説明を重ねていきたい」とした。

さらに、「発生時の防疫措置方法が変更されても飼養衛生管理の徹底や適時適切なワクチン接種が重要であることは、これまでと変わらない。このことについても都道府県や生産現場に周知を徹底し、可能な限りの発生予防対策と、万一発生した場合の円滑なまん延防止対策に取り組んでまいりたい」と強調した。

## 売り上げ増加し利益が大幅に向上、エスフーズの26年2月期決算

エスフーズは14日、2026年2月期決算を発表した。それによると、売上高は4723億1200万円(前期比6・2%増)、営業利益104億7600万円(103・7%増)、経常利益117億2600万円(83・5%増)、親会社株主に帰属する当期純利益92億3600万円(146・3%増)と大幅な増益となった。

セグメント別の概要は次の通り。同社グループは、「魅力あるスタミナ食品をもって世界に貢献する」「企業の成長・発展とともに生活・文化の向上を図る」という社是に基づき、お客に安全・安心な食肉商品を安定的に届けることを優先課題として、事業の継続と発展に努めた。食肉等の製造・卸売事業においては、海外事業への先行投資と国内事業の営業力強化、事業運営の効率化に努めた。海外事業においては、高級牛肉の調達力向上を図るため、米国のオーロラビーフ新工場建設を進めた。米国では生体牛高の影響により、収益面では前期に引き続き厳しい状況となったが、その中でも今後の収益の柱となる拠点の構築に注力した。当初計画より遅れはしたものの、本年7月から稼働を開始する予定である。また、ニュージーランドでは、牛の肥育事業において事業の再構築を実施し、現状の需要に応じて管理体制や在庫の見直しを行った。国内では、営業力強化を課題としてグループ企業と連携を図り、銘柄牛を中心とした国産牛の販売ルート拡充とシェア拡大に取り組んだ。また、北海道において、自社ブランドの国産豚肉「ゆめの大地」の供給能力向上を図るだけでなく、地域的な利点を生かして輸出対応の拡大に努めた。それ以外にも、飼料・物流などのコスト高騰が続く中で、在庫の適正化や老朽化施設・設備の整理を進め、より効率的な事業運営となるよう努めた。国産牛肉事業では、

国内外からの和牛の需要に対して取扱数量の増加や輸出拡大に努めた。その中で、今後の輸出拡大を見越して新たな生産拠点の構築に着手した。製品事業では、小売店向け食肉製品として、同社が得意とするホルモン商材を中心に消費者の嗜好(ルビ=しこう)に合わせた新製品の投入を積極的に行った。この結果、食肉等の製造・卸売事業売上高は4366億4100万円(6・1%増)、セグメント利益は98億8900万円(127・1%増)となった。

食肉等の小売事業においては、不採算店閉鎖を実施するとともに、新規デベロッパーとの取り組みを含めた出店、改装店の立ち上げや母店配送店の取り組みを進めた。また相場の高騰を踏まえた提案型商品の導入や新商品の開発も図り、魅力ある商品や売り場の構築などを実施した。これにより、この事業の売上高は248億5100万円(3・3%増)、セグメント利益は11億9千万円(9・5%減)となった。食肉等の外食事業においては、インバウンドや企業などの大型のパーティー需要も寄与しているものの、原材料費やエネルギー価格の上昇を受けながら、メニュー改定を実施する等の施策を行った。今後も競争力向上のための施策を実施する。この事業の売上高は99億5900万円(22・5%増)、セグメント利益4億1千万円(15・6%減)となった。その他売上高は8億6千万円(11・5%増)、セグメント利益は1億8千万円(46・5%増)となった。

なお次期の業績予想は売上高5千億円(5・9%増)、営業利益100億円(4・5%減)、経常利益110億円(6・2%減)、親会社株主に帰属する当期純利益65億円(29・6%減)を見込んでいる。

## エスフーズ、取締役の異動を発表

エスフーズは14日、取締役会を開催し、次の通り取締役の異動を決定した。なお、取締役の異動に関しては、5月22日開催予定の定時株主総会およびその後の取締役会で正式決定する。

[新任取締役候補者]取締役九州・中四国担当(執

行役員・中四国担当)上林尚起▽取締役海外事業担当(海外事業担当)岡部浩行

[退任予定取締役]専務執行役員姫路支店長(専務取締役姫路支店長)平井博勝▽執行役員管理本部長(取締役管理本部長)鶴木健治

## 飼料用米の平均希望数量は、主食用米の需給の影響受け大幅減 —JPPA 養豚農業実態調査③

日本養豚協会(JPPA)はこのほど、2025年(令和7年)養豚農業実態調査報告書を公表した。(13日、14日付既報)

飼料の給与形態は、「市販配合飼料のみ」が81・4%と最も多く、次いで「市販配合飼料+自家配合飼料」が13・0%、「自家配合飼料のみ」が5・6%となっている。地域別にみると、「市販配合飼料のみ」は「北海道」「東北」「中国・四国」で9割超と高い。給与内容は、「配合飼料」が92・5%と最多となっている。「飼料用米利用配合飼料」「飼料用米」は前年からそれぞれ減少。高止まりする市販配合飼料購入費の抑制方法は、「一定量の購入を継続することで価格交渉している」が55・4%と最も多く、次いで「共同購入により価格交渉をしている」が26・4%。大規模経営体ほど「一定量の購入を継続することで価格交渉している」の割合が高くなっている。

飼料用米の今後の利用意向として、87・0%が「利用を継続・拡大」とした。一方、飼料用米の平均希望数量は549・9tと、前年の943・4tより大幅に減少。主食用米の需給動向の影響などを受けた可能性がある。

飼料用米の平均買取価格は28・2円/kgとなった。飼料用米の平均買取価格を時系列比較でみると、年々上昇傾向にあったが、今年は前年を下回り、飼料代の全国平均は、5万8597・3円/tとなっている。

経営の推移と今後の動向では、子取り用雌豚飼養頭数について、全国的に「変更していない」が大半を占める中、「増やした」が「減らした」を上回ったのは「北海道」「東海」の2地域のみ。その他は「減らした」が「増やした」を上回った。また、飼養規模別にみると、「1千頭以上」の大規模経営体は「増やした」が「減らした」を上回る一方、「20~49頭」「50~99頭」「100~199頭」の小規模経営体は「減らした」が「増やした」を上回るなど二極化の傾向がみられた。

増頭の理由は、「収益をアップするため」が56・1%と最も多く、次いで「事情があつて減頭していたのを戻した」が29・3%、「繁殖成績が低下し、出荷頭数を維持するため」が26・8%と続く。増頭の理由の「その他」として、「規模拡大」「更新周期による」などが挙げられ

た。減頭の理由は、「老齢化で労働が厳しい」が25・9%と最も多く、次いで「廃業予定」が24・1%、「母豚1頭当たりの繁殖成績が向上した」が20・4%と続く。減頭の理由の「その他」として、「火災」「繁殖成績が良くない母豚を廃用した」「グループシステムへ移行」などが挙げられた。

肥育豚飼養頭数については、「変更していない」が8割強を占める中、「減らした」が「増やした」を3・1ポイント上回る。「増やした」は4年連続の減少となった。全国的に「変更していない」が大半を占める中、「増やした」が「減らした」を上回った地域はなし。飼養規模別にみると、「1千頭以上」の大規模経営体は「増やした」が「減らした」を上回る一方、「20~49頭」「50~99頭」の小規模経営体は「減らした」が「増やした」を上回るなど二極化の傾向がみられた。増頭の理由は、「収益をアップするため」が53・3%と最も多く、次いで「事情があつて減頭していたのを戻した」が23・3%と続く。

増頭理由の「その他」として、「多産系を入れた」「繁殖成績の上昇事故の低下」「規模拡大」などが挙げられた。減頭の理由は、「廃業予定」が25・6%と最も多く、次いで「老齢化で労働が厳しい」が20・9%、「疾病対策などで一時的に減頭している」「(飼料など)コスト高騰で規模を縮小した」が共に16・3%と続く。減頭理由の「その他」として、「暑熱による死亡」「疾病による母豚の死亡」「豚舎改修」「品種構成の見直し」などが挙げられた。

今後の養豚経営の意向は、「増減なく、現状を維持していく」が67・2%と最多となった。「規模拡大予定」が3年連続の増加となる中、「規模拡大予定」は「規模縮小予定」を16・0ポイント上回った。「規模拡大予定」は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響もあり、22年まで減少続きであったものの、その後3年連続で増加し、24・4%となった。

規模拡大予定の内訳は、「4年以内に規模拡大を計画している」が前年度から3・4ポイント減少しているものの、最多の50・4%となった。次いで「具体的な計画はないが、規模拡大を検討したい」が36・3%、「今年中に規模拡大を計画している」が13・3%と続く。地

域別でみると、「4年以内に規模拡大を計画している」が最多となったのは、「関東」「東海」「中国・四国」「九州・沖縄」。

一方、規模縮小の内訳は「具体的な計画はないが、規模縮小を検討したい」が前年度から11.7ポイント減少しているものの最多の51.3%となった。次いで「今年中に規模縮小を計画している」が30.8%、「4年以内に規模縮小を計画している」が17.9%と続く。

地域別でみると、「今年中に規模縮小を計画している」は「東北」「関東」、「4年以内に規模縮小を計画している」は「中国・四国」

農水省が令和6年を対象に実施した「畜産への新規就農及び経営離脱に関する調査」によれば、毎年、養豚生産者の3%程度が経営を離脱(令和6年は115戸)。肥育豚飼養規模別でみると、300頭未満が過半を占めるものの、1千頭以上も10戸が離脱。要因をみると、「高齢化」が最多の4割以上を占め、次いで「経営不振・悪化」が2割、「従事者の事故・病気・死亡」「後継者不在」が1割弱、その他は「労働力不足」「他の経営体との統合など」等が挙げられた。なお、経営を離脱した戸数の7割以上が60代以上であった。(連載続く)

## 輸入されるポーランド産牛肉の月齢制限を撤廃、14日から適用—農水省

農水省は厚労省と連携して、日本に輸入されるポーランド産牛肉等の月齢制限撤廃について、ポーランド政府との間で協議を進めてきた。10日、輸入される

ポーランド産牛肉等の月齢制限撤廃についてポーランド政府当局と合意し、14日から新たな輸入条件が適用された。

## かみむら牧場が、サラダバー、アイスバー、ドリンクバーを税抜き 500円 焼き肉ランチ(2種) 1129円で販売

ワタミ(株)とカミチクグループとの合弁会社、ワタミカミチク(株)が展開する「かみむら牧場」は、恒例となっている「肉の日」企画に加え、「ワンコインビュッフェ」を実施する。

4月の肉の日企画は、20日から24日まで。全国の「かみむら牧場」11店舗で「幸せの5日間」とし、期間限定で平日の11時から16時に販売している焼き肉ランチメニュー「人気の中落ちカルビランチ」と「特製辛ニンニクだれ中落ちカルビランチ」を通常価格1280円(税込み1408円)のところ、「いい肉」になぞらえた1129円(税込み1241円)で販売。さらにこの2種類焼き肉ランチに限りご飯のおかわりは何杯でも無料となる。

また、同期間でサラダバー、アイスバー、ドリンクバーを楽しめる、KAMIMURAランチビュッフェがフルセット通常価格800円(税込み880円)のところ、定食の注文者に限り、肉の日特別価格455円(税込み500円)で注文が可能。

「かみむら牧場」は和牛の食べ放題が手頃な価格で楽しめる焼き肉業態として、国内有数の和牛生産者

であるカミチクグループとの合弁事業として展開している。

カミチクグループから調達したA4

ランク以上の黒毛和牛「薩摩牛」を食べ放題で楽しめる他、特急レーンや配膳ロボットの活用により非接触型というニューノーマルな焼き肉店としてファミリー層を中心に多くの人気を集めている。

食べ放題メニューは、国産プレミアム黒牛「上村牛」が食べ放題となる「かみむら牧場コース」や、「かみむら牧場」厳選の「プレミアム5」が食べ放題など、複数用意している。



## 日本冷凍食品協会が利用状況を調査、若い世代では利用頻度が高い傾向

一般社団法人日本冷凍食品協会は、月1回以上冷凍食品を利用する20歳以上の男女1500人を対象に、「『冷凍食品』の利用状況と利用意識」に関する調査を実施した。

冷凍食品の利用頻度は全体で「週2〜3回程度」が29・7%、「週1回程度」が25・7%となり、平均回数は1・8回／週となった。属性別にみると、女性の63・5%、男性の68・4%が「週1回以上」利用し、平均回数は女性が1・9回／週、男性が1・8回／週。また、女性の25〜34歳が平均2・2回／週、男性20〜24歳と男性25〜34歳が平均2・1回／週など、若い世代において冷凍食品の利用頻度が高い傾向がうかがえる。

冷凍食品の利用頻度が1年前と比べてどう変化したかをきくと、「変わらない」(女性65・7%、男性67・3%)が多い中、女性の22・3%、男性の22・1%は利用頻度が「増えた」と答えている。性年代別にみると、割合が高いのは女性25〜34歳が30・4%、男性20〜24歳が32・0%と若い年齢の利用頻度が増えている。

増えた理由をきくと、共に「調理が簡単で便利だから」(女性78・4%、男性73・5%)が一番の理由に挙げられた。また女性の43・7%、男性の41・6%は「おいしいと思う商品が増えたから」と冷凍食品のおいしさを評価。簡単でおいしいという冷凍食品のメリットが高く評価された。

冷凍食品の購入目的をきくと、男女とも「自宅で食べる夕食」「自宅で食べる昼食」「お弁当用」の順となった。女性と男性のスコアを比較すると、「自宅で食べる夕食」は女性(59・6%)より男性(67・5%)の方が7・9ポイント高いのに対し、「お弁当用」は女性(36・7%)の方が男性(25・7%)より11ポイント高くなっている。

冷凍食品を使うことで短縮される時間をきくと、平均で1食当たり女性20・4分、男性18・1分、1カ月当た

りでは女性12・1時間、男性10・0時間となった。この時間をどう使うかときくと、「自分のための時間」(女性53・7%、男性48・1%)や「睡眠・休息・リラックスする時間」(女性40・6%、男性39・8%)に充てる人が多くなっている。

冷凍食品をおかずや主食(麺・炒飯など)として食卓に出すことについて、「手抜きだと思う」は女性31・5%、男性25・9%、「罪悪感がある」は女性25・3%、男性17・9%と、どちらも3割前後にとどまっている。また、冷凍食品に手抜きや罪悪感を感じる人は、年齢が高くなるほどに少なくなる傾向がある。

値上げの影響で購入量が減ったか増えたか、食品別(米／パン／うどん・パスタ／ハム・ソーセージ／精肉／冷凍食品／缶詰・レトルト／鮮魚など全14品目)に答えてもらった結果、全ての食品で購入量は「変わらない」が多くなっているが、購入量が増えた食品は、「冷凍食品」(17・3%)、「うどん・パスタ」(14・7%)、「豆腐・納豆」(13・6%)の順となり、冷凍食品は購入量が増えた食品第1位となっている。

冷凍食品の購入量が「増えた」「変わらない」と答えた人に冷凍食品を購入する理由をきくと、「値上げ後も必要性が変わらないため」(39・2%)、「調理の手間や時間が省けるから」(19・3%)、「代替品がないため」(12・6%)が挙げられた。冷凍食品には値上げにも勝る魅力があるようだ。

購入量が増えた冷凍食品の中でどんなメニューが増えたのか、1年前に比べ利用頻度が増えた冷凍食品を選んでもらうと、女性は「ギョーザ」(34・1%)、「冷凍野菜」(26・9%)、「パスタ・スパゲティ」(25・2%)の順に、男性は「ギョーザ」(38・0%)、「ピラフ・炒飯」(23・7%)、「パスタ・スパゲティ」(22・9%)の順となり、男女とも「ギョーザ」が1位だった。

## 春に入り米国における野生豚や捕食動物の活動が活発化(米国)

米国では、春から夏にかけて野生鳥獣による農業および畜産業への被害が増加する。とうもろこしなどの農作物の生産に対しては特に野生豚(Feral Hog)

が米国南部において大きな被害をもたらしており、各地で対策が講じられている。畜産業においては、コヨーテ、オオカミ、ハゲワシなどによる食害被害が生じ

ており、これらは農作物被害とは異なる枠組みの下で対策が講じられている。

動植物衛生検査局(USDA/APHIS)によれば、野生豚はもともと米国原産ではなく、1500年代に探検家や入植者により食料源として持ち込まれた豚が、放し飼いにされたことや脱走によってもたらされたとしている。また、1900年代にはユーラシア大陸の猪がスポーツハンティングの目的で米国の一部に導入されたとされており、現在生息する野生豚は、この2種類のどちらかまたは交雑種となっている。

野生豚は特に個体数の多いテキサス州を含む少なくとも38の州で報告されており、現在、米国南部と西部地域まで生息域が拡大している。野生豚は高い繁殖率のため、対策が講じられない場合は4カ月で個体数が倍増する可能性があり、現在、米国全土における個体数は少なくとも600万頭以上と推測されている。米国農務省(USDA)のデータによると、農作物の食害、牧草地の荒廃、インフラ設備の損傷、駆除に伴う労働力と費用などを考慮した場合毎年15億米ドル(2413億円:1米ドル=160.88円)の農業損失が発生していると推定されている。

野生豚が繁殖期を迎える春から夏、そして、自然餌が少ない秋において被害が多く、農作物においては、特にとうもろこし(9220万米ドル<148億円)、落花生(3850万ドル<62億円)、大豆(2320万ドル<37億円)の生産に多大な損失が発生している。畜産業においても例外ではなく、野生豚による捕食、病気の伝ばなどにより8500万ドル(137億円)の損害を与えており、特に牛、羊および山羊における被害が顕著とされている。

米国議会は2014年、USDA/APHISの下、野生豚による被害対策プログラム(NFSDMP)を設立し、全国的な罠や銃を使用した駆除により野生豚の生息域の拡大を抑制している。米国においては、銃や罠以外の駆除方法として、着色した毒餌(クマリン誘導體)を使用した方法も開発されており、一部の州(テキサス州およびオクラホマ州)においては、実際の現場で活用されている。

野生豚以外で特に畜産業に対して大きな影響を与えているのは捕食動物であり、特に影響が大きいのはコヨーテ、野犬、オオカミなどのイヌ科に属する動物とハゲワシなどである。コヨーテおよび野犬は、全体的な件数は多い一方で、大きな群れを形成するオオカミ

図1 米国における野生の豚の分布の推移(1982、2004、17、24年)

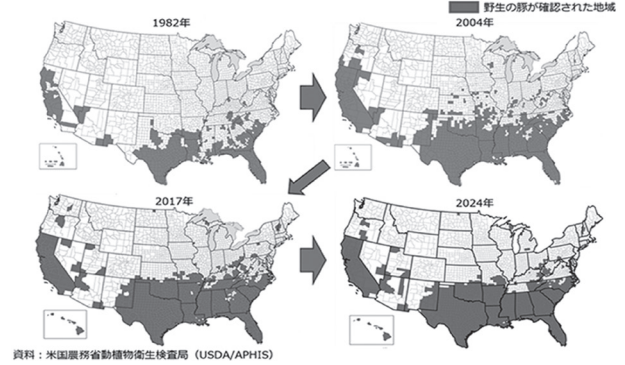


表 米国における主な肉食鳥獣による牛の死亡損失数・割合(2015年)

肉食鳥獣	体重500ポンド以上の牛		体重500ポンド未満の子牛	
	死亡損失数	割合	死亡損失数	割合
コヨーテ	16,880	40.5%	126,810	53.1%
野犬	4,700	11.3%	15,740	6.6%
ハゲワシ	2,170	5.2%	24,600	10.3%
オオカミ	2,040	4.9%	8,110	3.4%
その他・不明 <sup>(注1)</sup>	15,890	38.1%	63,630	26.6%
合計	41,680	100.0%	238,890	100%

(注1) その他の肉食鳥獣にはクマ、キツネ、ピューマ、その他猛禽類などが含まれている。  
(注2) 農場からの報告があった事例のみを計上しているため、実際の死亡損失数よりも少なくなっている。  
※資料：USDA/APHIS「Death Loss in U.S. Cattle and Calves Due to Predator and Nonpredator Causes, 2015」

による被害は1件当たりの被害が大きいという特徴がある。これらの捕食動物による被害は、繁殖活動に伴い活動が活発化することや家畜の幼獣が多く出生する春に発生しやすい。

肉食性の鳥獣に対する対策として、農場においては、フェンスの設置や孤立した家畜を発生させない群管理(Herding)などの非致死的な対策が実施されている状況である。米国において、ハゲワシやオオカミなどの野生鳥獣は、連邦法に基づく保護および個体数管理の対象となっている。家畜被害に対する致死的な措置については、適用される法制度や地域によって取り扱いが異なり、原則として連邦政府または州政府が定める許可制度や管理枠組みに基づいて実施されている。特に、絶滅危惧種法の適用を受ける地域におけるオオカミについては、アイダホ州、モンタナ州、ワイオミング州などを除き、致死的な措置は厳格に制限されている。

一方で、これらの鳥獣による家畜被害が発生した場合の対応については、被害の深刻化や管理の実効性を背景として、一部の州において州政府の関与や裁量を一定程度認める管理制度の運用が拡大すると共に、連邦政府においても保護対象種と畜産被害対策の両立に関する検討が進められている。(農畜産業振興機構)

[資料] 都道府県別と畜頭数 (令和8年2月)

年次・ 都道府県	豚	牛計	成牛							
			計	和牛			乳牛		小計	雌
				小計	雌	去勢	雄			
全国 (1)	1,309,123	79,915	79,584	38,984	19,262	19,686	36	20,772	12,552	
北海道 (2)	115,275	17,573	17,406	1,336	617	716	3	12,314	6,364	
青森 (3)	82,576	2,257	2,257	720	341	379	-	650	106	
岩手 (4)	29,035	1,219	1,215	841	435	402	4	146	145	
宮城 (5)	28,464	1,145	1,141	836	409	426	1	223	220	
秋田 (6)	25,825	286	286	252	85	167	-	2	1	
山形 (7)	30,246	1,055	1,055	844	708	136	-	42	42	
福島 (8)	18,298	219	219	189	110	79	-	16	16	
茨城 (9)	87,541	3,469	3,424	1,044	505	539	-	1,246	1,129	
栃木 (10)	33,565	867	860	269	148	121	-	335	304	
群馬 (11)	54,506	1,102	1,100	278	91	187	-	68	20	
埼玉 (12)	44,991	2,654	2,640	773	406	366	1	935	890	
千葉 (13)	69,672	1,556	1,516	132	102	30	-	573	456	
東京 (14)	17,328	6,393	6,393	4,987	2,192	2,795	-	26	2	
神奈川 (15)	43,622	1,336	1,335	715	378	337	-	129	117	
新潟 (16)	33,465	185	182	85	25	60	-	35	35	
富山 (17)	7,540	74	74	37	13	24	-	2	-	
石川 (18)	2,545	381	380	157	69	88	-	111	93	
福井 (19)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山梨 (20)	2,946	366	362	175	106	69	-	114	114	
長野 (21)	9,480	356	356	139	49	90	-	58	58	
岐阜 (22)	7,899	1,082	1,081	761	285	476	-	139	138	
静岡 (23)	14,568	567	562	173	133	40	-	78	76	
愛知 (24)	42,609	1,273	1,267	375	187	188	-	115	58	
三重 (25)	13,965	601	601	454	440	14	-	104	100	
滋賀 (26)	-	646	646	515	388	127	-	3	3	
京都 (27)	1,532	1,053	1,053	880	534	346	-	3	2	
大阪 (28)	2,787	1,624	1,624	765	385	380	-	194	17	
兵庫 (29)	8,104	4,887	4,886	3,624	2,183	1,438	3	508	317	
奈良 (30)	701	204	204	87	81	6	-	94	57	
和歌山 (31)	-	19	19	10	9	1	-	-	-	
鳥取 (32)	5,710	340	340	122	40	82	-	173	65	
島根 (33)	6,375	263	263	170	88	82	-	46	43	
岡山 (34)	6,082	512	512	117	67	50	-	300	228	
広島 (35)	6,624	1,372	1,370	311	151	160	-	470	351	
山口 (36)	-	132	132	28	26	2	-	34	26	
徳島 (37)	17,312	567	566	254	160	94	-	36	36	
香川 (38)	13,570	1,556	1,556	441	182	259	-	241	75	
愛媛 (39)	13,853	153	153	83	41	42	-	30	5	
高知 (40)	8,310	203	203	118	59	59	-	9	9	
福岡 (41)	16,628	3,961	3,953	2,889	1,600	1,289	-	254	180	
佐賀 (42)	6,113	491	491	481	163	318	-	5	5	
長崎 (43)	46,431	1,357	1,356	837	403	434	-	234	120	
熊本 (44)	12,827	2,643	2,642	1,850	778	1,069	3	339	320	
大分 (45)	11,926	544	544	394	182	212	-	41	30	
宮崎 (46)	79,692	4,069	4,062	2,868	1,259	1,609	-	157	43	
鹿児島 (47)	204,738	7,005	6,999	6,299	2,523	3,755	21	117	115	
沖縄 (48)	23,847	298	298	269	126	143	-	23	21	

資料=農林水産省「畜産物流通統計」

(単位=頭)

成牛										子牛	馬
乳牛		交雑牛				その他の牛					
去勢	雄	小計	雌	去勢	雄	小計	雌	去勢	雄		
8,191	29	19,771	9,359	10,402	10	57	32	17	8	331	667
5,925	25	3,725	1,462	2,263	-	31	17	14	-	167	3
544	-	887	421	466	-	-	-	-	-	-	69
1	-	227	62	165	-	1	1	-	-	4	-
3	-	81	54	27	-	1	-	1	-	4	-
1	-	32	21	11	-	-	-	-	-	-	8
-	-	169	67	102	-	-	-	-	-	-	20
-	-	14	14	-	-	-	-	-	-	-	136
117	-	1,134	508	626	-	-	-	-	-	45	1
31	-	256	97	159	-	-	-	-	-	7	-
48	-	754	474	280	-	-	-	-	-	2	1
45	-	931	434	497	-	1	1	-	-	14	-
117	-	811	510	301	-	-	-	-	-	40	-
24	-	1,380	760	619	1	-	-	-	-	-	-
12	-	491	278	213	-	-	-	-	-	1	-
-	-	62	31	31	-	-	-	-	-	3	-
2	-	35	18	17	-	-	-	-	-	-	-
18	-	112	93	19	-	-	-	-	-	1	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	73	66	5	2	-	-	-	-	4	40
-	-	159	75	84	-	-	-	-	-	-	1
-	1	181	43	138	-	-	-	-	-	1	7
2	-	311	141	170	-	-	-	-	-	5	-
57	-	777	427	350	-	-	-	-	-	6	-
4	-	43	30	13	-	-	-	-	-	-	-
-	-	128	40	88	-	-	-	-	-	-	-
1	-	170	110	60	-	-	-	-	-	-	-
177	-	664	241	423	-	1	1	-	-	-	-
191	-	753	524	229	-	1	1	-	-	1	-
37	-	22	17	5	-	1	1	-	-	-	1
-	-	9	9	-	-	-	-	-	-	-	-
108	-	45	27	18	-	-	-	-	-	-	-
3	-	47	12	35	-	-	-	-	-	-	-
72	-	95	58	37	-	-	-	-	-	-	-
119	-	589	308	281	-	-	-	-	-	2	-
8	-	70	66	4	-	-	-	-	-	-	-
-	-	276	11	265	-	-	-	-	-	1	4
166	-	874	393	481	-	-	-	-	-	-	-
25	-	40	8	32	-	-	-	-	-	-	-
-	-	76	24	52	-	-	-	-	-	-	5
74	-	807	266	541	-	3	3	-	-	8	102
-	-	4	4	-	-	1	-	1	-	-	-
114	-	285	170	109	6	-	-	-	-	1	-
16	3	446	154	291	1	7	2	-	5	1	268
11	-	109	74	35	-	-	-	-	-	-	-
114	-	1,035	518	517	-	2	2	-	-	7	-
2	-	582	239	343	-	1	-	-	1	6	-
2	-	-	-	-	-	6	3	1	2	-	1

# 東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 4月14日  
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1	
和牛	雌 A	高値	3,254	2,808	2,527	-	-
		安値	2,541	2,420	2,481	-	-
		平均	2,770	2,596	2,501	-	-
		頭数	65	11	4	-	-
	雌 B	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	-	2,570	-	-	-
		頭数	-	1	-	-	-
	去 A	高値	3,212	2,641	2,573	1,738	-
		安値	2,390	2,384	2,362	1,729	-
		平均	2,692	2,550	2,483	1,734	-
		頭数	138	40	10	3	-
去 B	高値	-	-	-	-	-	
	安値	-	-	-	-	-	
	平均	-	2,371	2,286	1,729	-	
	頭数	-	1	1	1	-	
乳牛	雌 B 1頭	平均	-	-	-	1,364	
	雌 C 1頭	平均	-	-	-	1,351	
	去 B -頭	平均	-	-	-	-	
	去 C -頭	平均	-	-	-	-	
交雑牛	雌 B	平均	-	-	1,832	1,760	
		頭数	-	-	9	2	
	雌 C	平均	-	-	-	-	
		頭数	-	-	-	-	
	去 B	平均	-	1,874	1,837	1,768	
		頭数	-	10	8	6	
去 C	平均	-	-	-	1,642		
頭数	-	-	-	1			

	牛	豚	搬入牛	搬入豚		その他
と畜 売買	405 405	885 941	- 57.0	(競り)	(相対)	
				-	22	67

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌	A	2,709	1,959	1,857	1,765	-
	B	-	1,810	1,873	1,737	-
和 去	A	3,008	1,786	2,399	-	-
	B	-	-	-	-	-
乳 雌	B	-	-	-	1,134	-
	C	-	-	-	1,255	1,172
乳 去	B	-	-	-	1,354	-
	C	-	-	-	-	-
交 雌	B	2,081	-	-	-	-
	C	-	-	-	-	1,142
交 去	B	-	-	-	-	-
	C	-	-	-	-	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	731	903	864	747	646
	安値	701	659	605	464	238
	平均	714	709	676	646	486
	頭数	( 5)	( 300)	( 337)	( 190)	( 109)
搬入 競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	頭数	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)
搬入 相対	高値	-	-	-	-	512
	安値	-	-	-	-	512
	平均	-	-	-	-	512
	頭数	( -)	( -)	( -)	( -)	( 22)

[大阪食肉卸売市場] 4月14日  
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) [ ]は豚規格

	5[極上]	4[上]	3[中]	2[並]	1[等外]
和 雌 A	2,743	2,569	-	-	-
(頭数)	( 29)	( 9)	( 2)	( 1)	( -)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)
和 去 A	2,846	2,475	-	-	-
(頭数)	( 34)	( 1)	( -)	( -)	( -)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	-	1,913	1,845	-	-
C	-	1,858	-	-	-
交雑去 B	2,001	1,973	1,917	-	-
C	-	-	1,833	1,733	-
豚	-	-	-	-	-

[全国と畜概算頭数]  
農水省統計部発表 (頭)

	4月14日	4月13日	(4月累計)
豚	62,300	63,200	603,500
成牛計	4,840	4,870	44,080
和牛雌	1,320	1,010	10,940
和牛去勢	1,250	1,600	12,310
乳牛雌	680	500	6,590
乳牛去勢	520	470	4,100
交雑雌	460	500	4,910
交雑去	610	780	5,210

[去勢牛 B3・2 規格 枝肉取引価格] 4月14日

東京	1,804 円	(前日 1,735 円)
大阪	1,919 円	(前日 1,840 円)

[豚・全農建値] 4月14日

上	中	取引頭数	市況
698 円	674 円	1,071 頭	強もちあい

と畜 売買	牛 92 頭 牛 105 頭	豚 109 頭 豚 - 頭	牛概況 豚概況	もちあい -
----------	-------------------	------------------	------------	-----------

# 各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 4月14日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	702 (702)	- (-)	5,814	-	もちあい
仙台 [中]	694 (712)	640 (675)	447	55	続落
栃木 [地]	- (-)	644 (673)	1,588	19	-
茨城 [地]	702 (716)	670 (698)	1,284	418	続落
群馬 [地]	702 (668)	629 (600)	1,852	261	反発
さいたま [中]	706 (681)	690 (670)	191	195	反発
東京 [中]	709 (677)	676 (656)	885	941	急反発
横浜 [中]	681 (725)	656 (680)	661	661	続落
山梨 [地]	704 (-)	691 (-)	138	84	上伸
浜松 [地]	- (-)	- (-)	-	-	競り休止
名古屋 [中]	768 (793)	748 (756)	759	235	反落
京都 [中]	744 (710)	735 (650)	88	102	もちあい
大阪 [中]	- (791)	- (760)	109	-	上場なし
神戸 [中]	768 (-)	743 (-)	-	136	-
岡山 [地]	696 (713)	690 (714)	345	224	弱気配
広島 [中]	717 (723)	684 (692)	399	79	続落
福岡 [中]	693 (706)	666 (689)	510	179	反落

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

[日本食肉流通センター] 4月7日～4月13日  
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 1,474,443 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,188	1,264	1,373	1,258	64,299
うで	788	831	907	851	129,419
ロース	1,112	1,193	1,271	1,201	144,494
ばら	1,246	1,296	1,372	1,299	142,594
もも	821	846	864	846	200,813
ヒレ	1,188	1,200	1,200	1,197	19,178
セット	1,072	1,094	1,106	1,095	773,646

◇近畿圏 総重量 739,467 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,274	1,421	1,474	1,401	59,866
うで	806	816	856	818	124,439
ロース	1,188	1,282	1,347	1,278	95,046
ばら	1,332	1,378	1,426	1,380	137,735
もも	802	826	864	828	163,863
ヒレ	1,231	1,317	1,391	1,321	11,539
セット	1,034	1,089	1,206	1,099	146,979

[食鳥正肉日経相場] 4月13日  
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (8社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	789	834	1,020	174
ムネ	448	490	656	153

◇大阪 (2社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	789	834	1,020	174
ムネ	448	490	656	153

[農水省統計情報部食鳥市況] 4月13日  
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽モ	手羽サ	ササミ
高値	1,092	712	550	600	650
安値	785	460	290	360	350
平均	849	505	-	-	-

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日中間中(1週間分)に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ(単価・重量)を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値(加重平均値)。

食肉業界紙のパイオニア

# 食肉通信の 専門紙・誌と本

食肉業界のあらゆる情報を迅速・正確に伝えるべく、日刊、週刊、月刊の3紙を定期発行。食肉関連の情報を網羅した週刊「食肉通信」、日々のニュース速報に特化した日刊「食肉速報」、市場分析などテーマ性の高い情報を詳細に掘り下げる月刊「ミート・ジャーナル」を基幹媒体として、食肉に関する専門書籍を多数発行しております。

### ■業界動向がデータでわかる 数字でみる食肉産業

生産から流通、販売まで関連分野のデータを集積。B5判。年1回発行。

B5判 472頁 4,191円(送料別)

### ■畜産・食肉業界の動向大全 日本食肉年鑑

現状分析と将来の展望、戦略構築に必携の一冊。関係名簿、畜産・食肉需給の動向、食肉流通の動向、食肉加工品関係の売れ筋動向なども収録。年1回発行。

B5判 500頁 14,850円(送料別)

### ◆食肉販売&経営関連

## 銘柄牛肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄牛肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴など最新データを満載。

B5判 258頁 定価2,500円(送料別)

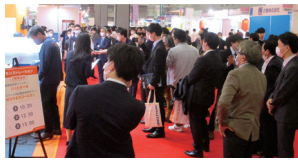
## 銘柄豚肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄豚肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴、輸出の状況など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

### ◆イベント

#### ■国内で唯一、 最大級の食肉総合見本市



## 食肉産業展

食のグローバル化が目覚ましい発展を遂げる中で、和牛に象徴される日本独自の食文化を守り今後の成長を促すため、多彩な素材食品、加工技術、販売手法、管理システムを一堂に集めて提案いたします。

(HP) <https://www.shokuniku-sangyoten.jp/>

お申し込みは電話かFAXで  
お近くの食肉通信社まで

# 株式会社 食肉通信社

■大阪 〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48  
■東京 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10  
■九州 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12

TEL 06(6538)5505 FAX 06(6538)5510  
TEL 03(6206)0929 FAX 03(6206)0928  
TEL 092(271)7816 FAX 092(291)2995

## 週刊 食肉通信



食肉全般の行政、業界ニュースをはじめ、新製品や食肉店経営のページ、量販店・外食、食肉組合、食肉市場などのニュースのほか、週間・月間市況や全国の食肉市場の牛・豚肉相場、食鳥相場など、国内外の生産から商社、卸、小売まで広範な情報を掲載しています。わが国唯一の食肉専門紙。

発行は毎週火曜日、ブランク判8~12ページ、価格は年間25,000円(税・送料込)

## 日刊 食肉速報



食肉関連に関する行政、業界の動向をはじめ、国産(牛枝肉・部分肉、豚枝肉・部分肉、プロイラー)と輸入(米国産やカナダ産の牛肉・豚肉、豪州産牛肉など)の相場市況を毎日掲載するとともに、企業情報・企業倒産など日々の業界ニュースをお届けします。

発行は月曜日から金曜日、A4判14ページ、価格は年間82,080円(税・送料込) ※軽減税率対象

## 月刊 ミート・ジャーナル



食肉の流通チャネルが多様化する中で、その時々のもっとも話題性の高いテーマを多角的視野で捉え、現場をレポート・分析。あわせて食肉・食肉製品など総業の製造・流通・販売の現場ですぐに役立つ技術情報などを掲載する月刊専門誌。

発行は毎月月上旬、B5判120~150頁、価格は年間23,100円(税・送料込)

### ◆教材&レポート等

#### ■あなたの常識を強化にする 今さら聞けない肉の常識

平野正男  
鏡 晃 著

肉はなぜ赤いのか、しゃぶしゃぶがおいしい理由は?など66の常識をわかりやすく解説。

A5判 152頁 定価1,500円(送料別)

#### ■~食肉のプロフェッショナルを育てる~シリーズ 牛枝肉・牛部分肉の見方 牛肉の見方を簡単図解

「牛枝肉、牛部分肉のポイント」について分かりやすくまとめた待望の入門書。

B5判 90頁 定価3,000円(送料別)

#### ■職人の技を次世代へ繋ぐ、保存版 牛枝肉・部分肉の 分割と商品化

カラー写真も豊富で、各種規格、枝肉の分割から商品化までの全てが分かる一冊。

B5判 216頁 定価5,500円(送料別)

#### ■知識を豊かにする 食肉用語事典

平成22年に新改訂した、定評のエンサイクロペディア。新訂正版は3,000語採録。

日本食肉研究会編 A5判 506頁 定価7,000円(送料別)

### ◆ステーションリー

## 食肉手帳 DIARY

毎年発行し好評をいただいている業界人必携の手帳がグレードアップ。機能性、食肉価格などの資料も充実し、日頃の業務をサポートします。名入れも可。

横9.4cm×縦14.5cm 定価990円 ※購入される冊数によって価格は変動します